

1 文献名
『立教百年誌』
2 学校名
立教小学校
3 災害名
昭和 19 年（1944 年）東南海地震
4 記述の概要
<p>(1) 雨や風、地震などの様子</p> <p>93 名ぎっしり机を並べて習字をしている時に、地震は起こった。余震が何度かあり、夕方まで恐怖におののいていた。(P184)</p> <p>2 階の教室は、揺れがひどく大変な騒ぎとなった。(P189) (※)</p> <p>強い風が吹いてきた様な音がした後、急に揺れ出した。(P192)</p>
<p>(2) 学校内や地域の被害の状況</p> <p>正門のレンガ製の門柱が倒壊した。(P181、184)</p> <p>昔の堀の埋立地のため、校庭のあちこちで地割れがして、水を噴き上げていた。町中のあちこちで大きな被害があった。(P184)</p> <p>校庭は水びたしで、ひざ下まで水につかった。(P192～193)</p> <p>講堂では、周りや天井の壁土が落ちてきた。(P192)</p> <p>地震の後、大丈夫かどうか確認できるまで校舎の 2 階にあげてもらえず、カバンを置いたまま帰宅した。(P193)</p>
<p>(3) 復旧の様子</p>
<p>(4) 体験談</p> <p>名古屋港近くの工場へ動員されていた女学生多数が大地割れに吸い込まれて死亡したという悲報を聞いた。(P184)</p>
<p>(5) 教訓など</p> <p>下駄箱は倒れたが、幸い全員靴はいつでも空襲警報が入ったら逃げ帰れるよう机の下に置いてあったので、早く運動場へと避難することができた。(P184)</p>
<p>(6) その他</p> <p>※P189 の記述は、本文中には「三河地震」とあるが、記述内容から判断して「東南海地震」のことであると考えられる。</p>